

高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する シンポジウム(5/29)・対話の場(6/9)



開催結果 ①

- ◆ これまで開催した「対話の場」や、村のみなさまを対象にしたアンケートで「多様な専門家の話を聞いてみたい」というご意見を多数いただいたことから、村のみなさまを対象とした、専門家によるシンポジウムを5/29に開催しました。
- ◆ また、6/9に開催した第8回対話の場では、シンポジウムを振り返り、委員の皆さんの感想や疑問について話し合いました。
- ◆ シンポジウムの内容や、第8回対話の場の内容について、今回を含め2回にわたってお知らせいたします。

1. シンポジウム概要

【日時】 2022年5月29日(日) 15:00~17:40

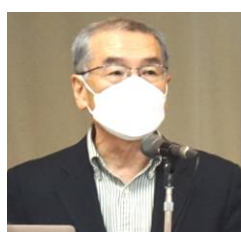
【場所】 神恵内村漁村センター

【参加数】 村のみなさま74名

【専門家】

伴 英幸氏 (NPO法人原子力資料情報室共同代表)

吉田 英一氏 (名古屋大学博物館教授 館長)



伴 英幸氏



吉田 英一氏

【進行】 大浦 宏照氏、佐野 浩子氏 (対話の場ファシリテーター)

【内容】

● 開会あいさつ：神恵内村 高橋村長

- 地層処分事業には様々なご意見があることは、私も承知しております。今回のシンポジウムで、いろいろな視点をもつ専門家のご意見に触れる事で、村民のみなさまが、この問題についてのそれぞれのお考えを深めていただく、いい機会になるのではないかと思います。



高橋村長

● 地層処分の概要説明(DVD上映)

● 専門家から説明、意見交換:

- 伴 英幸氏、吉田 英一氏より、それぞれご説明頂いたのち、村民のみなさまから事前に頂いたご質問や、対話の場でのご質問について、お二人のお考えを伺いました。

～配付資料や映像は、NUMOホームページでご覧いただけます～

- 今回のシンポジウムの資料は、NUMOのホームページに掲載するとともに、NUMO神恵内交流センターでも配付しております。
 - 当日の映像については、DVDに収録し、交流センターで貸出しいたします。
 - より詳しい内容にご関心のある方には、ご説明に伺いますので、お気軽にご連絡下さい。
- (NUMO神恵内交流センター0135-67-7711)

NUMO <https://www.numo.or.jp/>



2. 意見交換<地層処分事業の制度について>

- ◆ 伴英幸氏から、制度面における課題についてご説明いただき、いくつかの点について、意見交換を行いました。
- ◆ 専門家お二人のご意見、シンポジウム会場でみなさまから頂いたご意見・ご質問、6/9の対話の場での委員のみなさまのご意見を紹介します。

(1) 交付金について (伴英幸氏からの課題提示)

文献調査段階では 交付金を支給しない

交付金めあてに応募や誘致が行なわれると、
かえって地域が混乱する可能性がある。
地域経済は交付金に依存するようになり、
地域の経済構造が大きく変化する。むしろ、
地場産業は衰退する恐れがある。

※伴英幸氏説明
資料から抜粋

< 専門家のご意見 >

【伴 英幸氏】

- 交付金に頼ると、むしろ地場産業が衰退する恐れあり。
- 原子力の交付金よりも、地域の特質を活かしていく方がいいのでは。
- 村の将来をどう描くかに関わる事であり、最初に交付金で始める事は違うのではないか。

【吉田 英一氏】

- 地層処分の研究施設がある岐阜県瑞浪市に住んでいるが、瑞浪市にも交付金が入っている。
- 地域振興や、インフラ整備に使われたと思うが、漁業や農業などの地場産業に、どう使われていたのかはわからない。

【補足説明:資源エネルギー庁 下堀課長】

- 文献調査は、机上調査であり、いわば対話活動の一環だが、文献調査を実施する地域に、様々なご負担をおかけする事になる。
- 交付金は、国の課題解決に多大な貢献を頂く地域に、敬意と感謝を示し、地域の発展と住民の福祉の向上を図るためのもの。

< 対話の場(6/9)での委員のみなさまのご意見 >

- 交付金のためだけに文献調査している訳ではない。お金の問題だけではない。
- 交付金について、地域が好きに使えるようにして欲しい。否定的なお話にちょっと不快感も・・・
- 神恵内の交付金、どう使うか?それを先に話しては?



(2) 総量規制について（伴英幸氏からの課題提示）

使用済核燃料も 高レベル放射性廃棄物 種類と総量を確定する

ガラス固化体とTRU廃棄物だけが処分対象はおかしい。近い将来には、使用済核燃料や使用済プルーサーマル燃料も、さらには福島第一の廃棄物なども処分対象となるはず。これらの総量を確定して、それらの処分方法や安全評価を研究・実施するのが先決。数キロの深さに処分する選択肢もある。

特にコスト高の点から全量再処理政策は見直しが必要。



※伴英幸氏説明資料から抜粋

《 専門家のご意見 》

【伴 英幸氏】

- 原子力発電は、そう長くなく終わるのではないかと。
- 総量を規制することが、将来の選択肢を狭めるという事ではなく、積極的に原子力を終えていく方がいい。

【吉田 英一氏】

- 総量が決められるのは理想的だと思うが、何を以て総量というのか難しい。
- 例えば、福島第一原子力のデブリをどうするか、CO2排出削減との関連などが、総量を定める際に影響するのではないかと。

【補足説明：資源エネルギー庁 下堀課長】

- 資源が乏しい日本では、電力の安定・安価な供給、そして気候変動の問題等を考えると、原子力利用は欠かせない。
- 総量規制を選択するという事は、原子力利用に上限を設けるという事につながりかねない。
- 国として責任あるエネルギー政策を実行していくという観点からは、総量規制をすることは、適切な選択ではない。



資源エネルギー庁
下堀課長

《シンポジウム会場で頂いたご意見・ご質問(抜粋)》

- 原子力発電は近い将来終わると考える動機、理由を知りたい。
- 「総量を確定すべき」という考え方について、現時点で計算できている量を処分することを基本として、将来の原子力稼働の可能性を最大限にみただで考えるべきであると思うが間違っているのでしょうか？
- もし処分場が出来ても1ヶ所で済むとは思えないし原発が動く限り廃棄物は無くならないし、何ヶ所作ろうとしているのか？

(3) 原子力発電について

【みなさまからの事前質問】

ヨーロッパでは、原子力をグリーンエネルギーとみる動きがあるが、日本はどうあるべきか。

《 専門家のご意見 》

【伴 英幸氏】

- グリーンエネルギーとは、環境に優しい、CO2排出量が少ない発電。本来、そこに入るのは再生可能エネルギーだと考える。
- 原子力は、運転中はCO2を出さないが建設の段階などで排出しているため、本来的にグリーンとは言えないのでは。
- 日本では、再生可能エネルギーの多様化を進めるべき。

【吉田 英一氏】

- 個人的には、廃棄物がこれ以上増えるのは困る。原子力はCO2削減には効果があるかもしれないが、廃棄物であるとか、津波等のリスクを考えた時に、CO2という観点だけでグリーンと言われても…
- 原子力のリスクを考えた場合、原子力以外でエネルギー供給が維持できるのであれば、原子力ではないエネルギーを開発した方がいい。

【補足説明：資源エネルギー庁 下堀課長】

- CO2削減、気候変動対策をしなければならないので、国は、再生可能エネルギーもしっかり取り組んでいく方針。
- 国としては、再生可能エネルギーのみならず、原子力も含めて、エネルギーの安全・安定的な供給について、最大限取り組んでいく。

《シンポジウム会場で頂いたご意見・ご質問(抜粋)》

- 再生可能エネルギーにも多くの問題があると思うが、問題はないのか。
- 再生可能エネルギーをはじめ、将来CO2排出量が少ないグリーンエネルギーに転換していくのはそのとおりだと思う。しかし、昨今の世界的なエネルギー供給問題など、先行きが見えない不安があるのも事実。原子力が今すぐやめるべきエネルギーなのか、私にはわからない。



シンポジウム（5/29）と第8回対話の場（6/9）に関する内容については、引き続き、お知らせしてまいります。

詳しい内容にご関心のある方には、ご説明に伺いますので、お気軽にご連絡下さい。
(0135-67-7711)